（第三種郵便物認可）
東京朝日新聞
號外
【本紙不再錄】
編輯發行兼印刷人
番　本　濱　輔
發行所
東京市麹町區有樂町二丁目三番地
東京朝日新聞社

本社機に同乘して上空から錦州を見る

眼下に白煙揚げる無數の貨車

長谷川特派員奉天六日發電

敵が防禦を益々嚴にしつゝありとの報ある錦州を空中から見るため河内飛行士の操縦するプス・モス機に同乘奉天飛行場を出發したのは五日午前八時三十五分であつた、快速はやぶさのやうなプス・モス機は五百メートルの高度を取ると見る間に南々西錦州子の方面に進路を定めてコースを取つて射撃を受けたりしてはならぬので二千メートルの高度を取つたが錦州子は錦州軍大部隊の集結地といふだけあつて停車場には多數の機關車汽車が構内に塞り兵營の付近は散兵がうかみ、ずのやうに蠢つて居た南するに從れ西方雲霧の如き遠山を望むいはゆる大公安嶺の山系で、行く手に一大河の横たはるのは大凌河だ、大鐵橋を眼下に飛ぶ、河水は全部凍結して二三の人影が氷上を渡つて居る、西岸には錦州防禦の第一線であらうざんがうが所々に掘られては居るが兵の姿は見えない、線路に沿つて進むと地は丘陵地らしく段々上りに双羊店付近にも構築された野砲陣地ざんがうなどが鮮やかに見える、第二段の防禦線であらう西南方山に圍まれた大市街が眼界に入る市街中央に聳ゆる鼓の巨塔がそびえて居る錦州だ！錦州だ！我がプス・モス機は市の外廓に沿つて大きく一周する、市中は街區整然繁華で高い城壁を繞らし東西南北には大門を構へてゐる市街南方には小陵河が流れ西北方には紫荊山がそゝり立つてゐる、荒涼たるせき土平原を飛び續けて來た我々には京都を思はせるやうな落つきある街と映じた、錦州軍の本據だけあつて廣大な構内を持つ停車場で貨車客車が完備して機關庫付近には多數の機關車が勢よく白煙を上げてゐた、市街の東北方約二キロメートルの所には大兵營があり、その規模は奉天の北大營にも劣らず飛行場も併せ用ゐ格納庫の上に吹ながしがひらめいてゐるが、どうした事か兵隊の姿は見えなかつた、かくて長閑奏として始めて錦州の上空を飛んだ我プス・モス機は危んでゐた砲彈の洗禮も受けず無事奉天に引返し午後十一時四十五分飛行場に着陸した

本社機より撮影せる錦州市街

錦州の支那軍我軍に攻撃開始説

關東軍では山海關かと見る

【天津特派員七日發】[illegible]錦州の支那軍は六日夜日本軍に對し攻撃を開始し、錦州の支那軍は極度に[illegible]

【奉天特派員七日發】[illegible]

戰機刻々に迫る錦州の實地踏破

ざんがうに電燈まで設備

【奉天七日電通】特派員發 [illegible]

＝錦州＝ [illegible]

＝夜目＝ [illegible]

＝ざん＝ [illegible]

＝明く＝ [illegible]

學良、榮臻に彈藥輸送を電命

至急馬占山に送れと

＝檢査＝ [illegible]

[illegible]

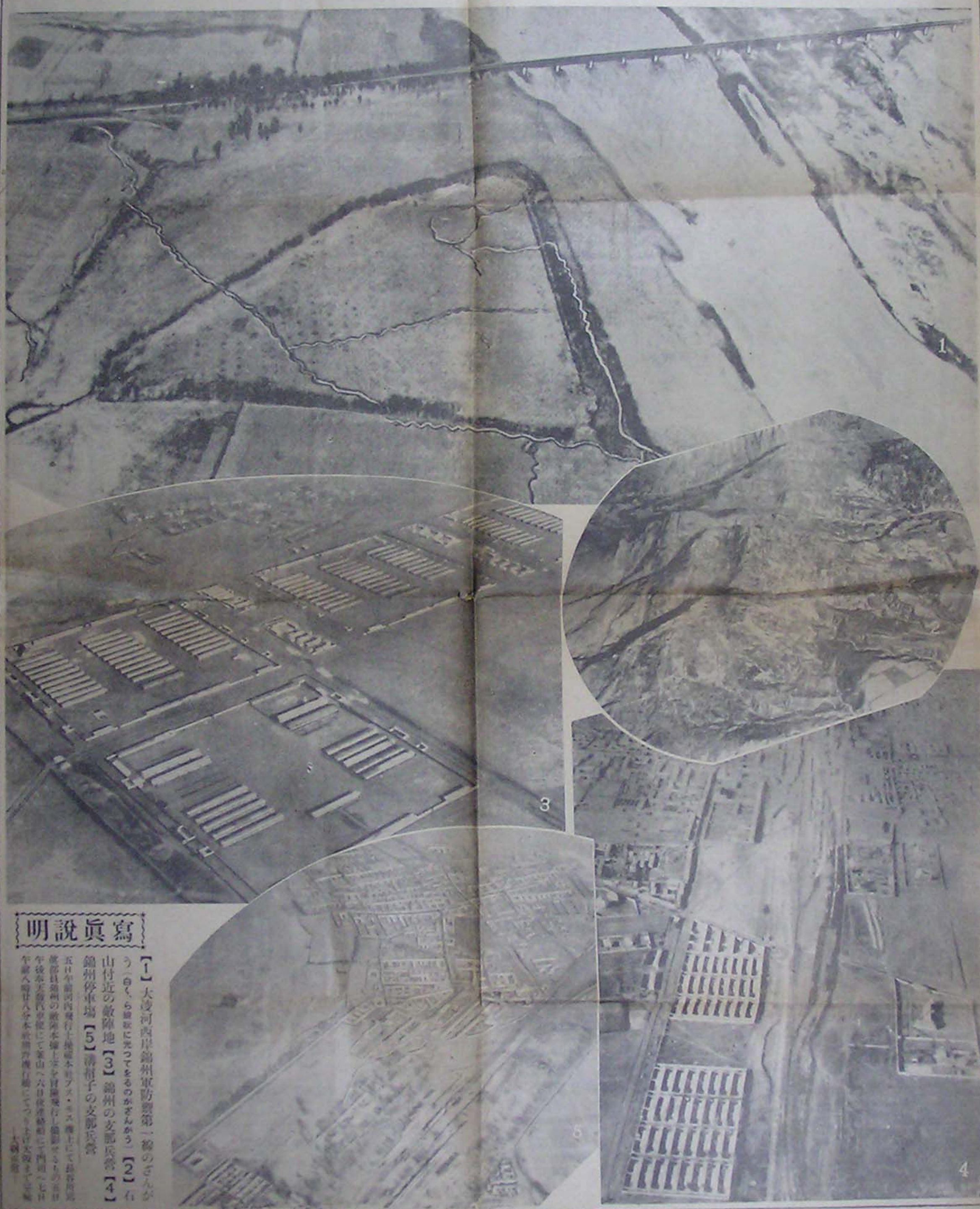
蔣の硬化は例の政略的

蔣氏に北上電請

[illegible]

錦州付近張學良軍配置要圖

事態再び急を告ぐる錦州



寫眞說明

【1】大凌河西岸錦州軍防禦第一線のざんがう（白くゝら線に光つてをるのがざんがう）【2】石山付近の敵陣地【3】錦州の支那兵營【4】錦州停車場【5】溝帽子の支那兵營

五日午前河西飛行士使嗾本社プス・ミス機上にて長春出發奉天飛行場に着陸し錦州をうかの五日午後奉天發汽車使にて葉山（六日午後錦州に）西園（七日午前八時廿八分本社特別機上にてつゝか大阪まで空輸）